

(様式5)

# 調査報告書

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日	平成 20年 9月 2日
調査実施の時間	開始 9時 30分 ~ 終了 14時 00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 虹の杜 ( 鹿児島県 )
-------------------	-------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>山下 賀子</u>
	氏名 <u>福留 昭</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>長山 とみ子</u> ヒアリングを行った職員数 <u>3 名</u>

<b>※記入方法</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。</li><li>●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。</li></ul>
<b>※項目番号について</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●外部評価項目は30項目です。<ul style="list-style-type: none"><li>○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。</li><li>○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。</li></ul></li></ul>
<b>※用語について</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)</li><li>●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。</li><li>●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。</li><li>●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</li></ul>

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年9月 16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4671500165号		
法人名	医療法人 仁梅会		
事業所名	グループホーム 虹の杜		
所在地	鹿児島県日置市吹上町湯之浦760-1 (電話) 099-245-1460		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年9月2日	評価確定日	平成20年10月24日

【情報提供票より】(平成 20年 8月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 0人, 常勤換算 15人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建て 1～2階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	800 円	その他の経費(月額)	600 円
敷金	有( ) 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

## (4) 利用者の概要 (H20年 8月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	8名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2			
年齢	平均 88.05歳	最低	66歳	最高	102歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山之内クリニック 馬場病院 ニコニコ歯科
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは医療法人が母体で、地域との交流を大切にして「人は人として、幸せを感じるホーム」にしたいという熱い思いのもとに開設されている。同敷地内には高齢者住宅があり、入居者と一緒に茶話会やピアノ・三味線演奏など行事の交流もある。畑では利用者が家庭菜園を楽しんだり、職員と共に地域の道の駅等へ買い物に出かける事も多く楽しみとなっている。入居者と職員と一緒に地域行事に参加したり、季節毎のお菓子を作り近隣の方に配るなどしている。利用者は得意分野を發揮し、達成感もてるような支援を行っている。職員や入居者も地元の人が多いので話題作りがしやすく、安心して穏やかに生活している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	職員を育てるしくみについては、年間研修計画書を作成し外部・内部研修共に充実し改善している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価のねらいや意義を職員に説明し、全職員で自己評価をして自己の振り返りを行い、理解を深めて相互成長を促すための取り組みを行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的開催し、入居者の状態やホームの取り組み状況等を報告している。また自治会長を中心に地域行事参加の相談やホーム行事へのアドバイスをもらったり、行政の情報や入居者・家族の意見も取り入れながらサービスの質の向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や家族会の場を利用し、家族から気軽に話してもらえるよう積極的に声かけを行っている。要望も意見箱を設置して、職員で話し合いを行いその結果を家族に報告するなど、解決に向けた取り組みがなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の行事や清掃に入居者と一緒に参加している。自治会から道路沿いの一角の花壇を提供してもらい、季節の花を植えている。また、あくまきや団子等を近所の方におすそわけしたり、ホームの行事にも地域から参加があり、地域との交流を大切にしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より理念の一つに「地域との垣根のない交流」を掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やホール等に掲示している。管理者は月1回のミーティング時に、理念について注意を喚起し、職員の理解を深めながら日々のケアに反映するよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事や総会・清掃に入居者と一緒に参加している。自治会から道路沿いの一角に花壇を提供してもらい季節の花を植えたり、近所の方にあくまきや団子等をおすそ分けしたり、ホームの行事に地域の方の参加もみられ、交流を大切にしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を職員に1部ずつ配布し記入してもらい、自己の振り返りを行いながら理解を深めるように独自の取り組みを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行っている。地域行事参加の打ち合わせやホーム行事について、また行政からの情報や入居者・家族の意見を取り入れながら、サービスの質の向上に活かすよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議以外にも連絡を取り合い、入居者の状況について情報交換や相談を行いながら連携を図っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に近況報告や行事の写真を見せたり、月1回の手紙で健康状態の報告や行事案内、職員の異動も行っている。ホーム便りは3ヶ月毎に発行している。金銭出納帳は領収書を添付し家族に確認サインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、家族の意見や要望等、気軽に話してもらえるよう積極的に声かけを行っている。要望も意見箱を設置して、職員で話し合いを行い早急に改善し家族にも報告する等、解決に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	原則的には各ユニットの職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新任職員の場合は経験者と新任職員のバランスを考慮して配置し、入居者や家族と信頼関係を築くよう努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、外部研修は職員が交代で参加し伝達講習を行っている。内部研修は毎月担当者を決め勉強会を行いサービスの質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム連絡協議会に加入し職員は交替で研修に参加し事例検討や情報交換を行っている。また他グループホームとの交流を行いサービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の場合は、まず本人と家族と一緒にホームを見学してもらっている。入居者や職員と一緒にお茶を飲みながら、楽しく交流を図り、ホームの雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを、職員は共有している。漬物作り、あくまき作り、調理や畑仕事等、教わりながら一緒に過ごし、支え合う関係を大切に支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日々の生活の中で本人の意向や希望を聞きながら、自分で選択できる場面を多く作り、本人の意向に沿った支援を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族・関係者から意向や希望を聞き、職員の意見を参考に介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは1ヶ月に1回行い、記録として残すよう改善されている。状態変化に応じた随時の見直しと、3ヶ月に1回の定期的見直しもやっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合い本人の意向に沿った通院支援や訪問美容サービスの支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医となっており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し医療が必要な場合は病院、介護が必要な場合は介護施設と、かかりつけ医の判断により家族と相談し方針を決めている。ホームの方針については、入居時に口頭のみ説明となっている。職員は情報の共有もできており、過去に家族の希望で看取りの支援も行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は日々のケアの中で、自尊心を大切にされた声かけや対応の仕方を職員に指導している。面会等も個人別にする工夫を行い、プライバシーの保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の健康状態やその日の気分を大切に、食べたいものや入浴の時間を自由にして、散歩や買い物など本人のペースに合わせ柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は1週間分ずつ立てているが、随時希望に合わせた献立に変更することもある。誕生日には本人の希望を重視している。買い物から調理・片付けまで、個々のレベルに合わせてできることを一緒に行い、食事を楽めるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽めるように支援している	毎日の入浴や、少なくとも週3回の入浴ができるように取り組んでいる。入浴ができなかった入居者を徐々に入浴ができるように、個別の体調や希望に応じた支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や茶わん洗い・野菜作り・草取り・散歩・買い物等、個々の能力に応じて入居者が達成感をもてるよう支援している。高齢者住宅への往来もあり茶話会やピアノ・三味線・合同行事などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	通院の帰りに入来浜へのドライブや花見・遠足・温泉祭り・伊作太鼓・踊りの見学・外食などや交替で食材の買い物にでかけるなど、外出する機会を多く作って支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は解放し居室も鍵をかけることなく自由な暮らしを支援している。外出の気配がある時は見守りながら一緒に散歩することで気分転換を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災訓練は消防署の協力をもらいながら、夜間を想定した訓練を行っている。台風や停電に備えての対策や非常食・水・ガスコンロも用意されている。地域の協力体制に向けた取り組みも行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて食事形態の工夫を行っている。食事摂取量を毎日記入し水分補給も1日1200～1500mlを目安に支援している。保健センターの栄養士に献立をみてもらいアドバイスをもらっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花、建物の周囲は野菜が植えられている。リビングには季節の花や絵・入居者の作品が飾られている。ソファやタタミスペースもあり、明るくて居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には机・椅子・鏡台・タンス・観葉植物・写真等が持ち込まれ、その人らしく居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。